

平成22年度組織的な大学院教育改革推進プログラム
「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」
「キャリア形成のための院生自主企画」実施報告

I. 自主企画の内容

(1) 企画の名称

「空間の繋がりからみた建築・都市・スペースシンタックスを用いて」

(2) 開催日時・会場

2010年7月9日(金) 17:00～19:00 E棟218-1室

(3) 講演者

木川 剛志 (福井工業大学工学部デザイン学科准教授)

(4) 企画者

城戸 杏里 (人間文化研究科博士前期課程住環境専攻)

(5) 支援教員

山本 直彦 (生活環境学部住環境学科准教授)

(6) 参加人数

19名 (内訳: [学内職員1名, 大学院生7名, 学部学生・研究性10名, [学外]1名)

(7) 自主企画概要

ヴァナキュラ集落などに見られる有機的形態を数理的に解析し、その合理性を導出する研究から始まり、近年ではノーマン・フォスターのミレニアムブリッジ、トラファルガースクエア改造などの実際の都市計画にも実践されている空間解析手法のスペースシンタックス理論について、木川剛志氏にスペースシンタックスの概要を紹介いただき、氏の研究および実務の事例を紹介していただくことを目的とした。今回の講義では、効率性を指標とする“ゲーム”的な街路構成と文化や歴史背景に拠る“儀礼”的な空間構成の双方の分析視点に基づき、スペースシンタックスを用いることによって明らかになる空間の特質、また同手法を日本やその他の土地の建築、都市に応用した際の可能性についても討論した。

II. 実施報告

1. 企画者の報告と参加者の声

1.1 企画者実施報告

今回のレクチャーでは、スペースシンタックス理論を用いて数多くの研究をされている、福井工業大学の木川剛志氏をお迎えし、スペースシンタックス理論の基本を学ぶとともに、空間の繋がりにからみた建築と都市との関係について、これまでに木川氏ご自身の京都や台湾における研究成果に即してお話ししていただきました。スペースシンタックス理論は日本ではあまり知られてはいませんが、これを用いた研究は世界中で数多くなされています。氏の研究では、氏スペースシンタックス理論は単なる空間特性の解析のツールだけに留まらず、都市形態学の観点を導入し、対象地で生活を営む居住者の文化に及ぶまで理論と解釈を与え、文化の形のパターン化を図り、他文化との比較・検証を可能としていることについて語られた点が、特に注目すべき点でした。難しいテーマでしたが、院生・教員だけでなく学部生の出席も多く、また海外の方の参加もあり、様々な見解から幅広い視点を持った活発な質疑応答が行われました。中には、スペースシンタックス理論を初めて触れる参加者もあり、十分に理解したとは言いきれませんが、今後の各々の研究活動における課題を解決するための多くのヒントと視点を得られたと思います。

1.2 受講者感想

レクチャー終了後、参加者に感想をいただきました。以下に一部抜粋いたします。

スペースシンタックスの基本的な概要や解析方法についてわかりやすく説明していただきました。スペースシンタックスは都市の情報を機械的に処理するだけでなく手作業による分析も含んでいるため柔軟性のある解析ができるというお話は興味深かったです。木川さんの人柄も明るく、質問にも丁寧に答えてくださり、楽しい雰囲気での講演会でした。都市の解析方法について貴重なお話を聞けて、今後の研究にも新しい視点を持ち込めると思います。

(文責：城戸 杏里)